

イノシシにご注意ください！

河南町のイノシシ被害をご存知ですか？すでに被害にあっている方、畑や道路にいるイノシシを見かけたことがある方もいらっしゃると思います。

近年、イノシシは昼夜を問わず、また、山間地域だけでなく人里にも出没し、様々なトラブルを引き起こしています。今は被害にあっていない方も、いつどこで遭遇するかわかりません。なぜイノシシが田畑に出没するのか、どうすればイノシシが出てこなくなるのか、イノシシに出会った時はどうすればよいのかなど、正しい知識を身につけて、被害を未然に防ぎましょう。

どういった被害があるの？

イノシシはエサを求めて行動します。鼻を使って土を掘ったり石を持ち上げたりし、手当たり次第にエサを探します。その結果、次のような被害をもたらします。

栽培している農作物を食べる。

田畑を掘り返す。

山や崖などを掘り、大穴をあけたり、土や石を落とす。

また、このような被害がなくても、家周辺で姿を見かけて恐怖からこけて怪我をしたり、車に衝突したなどの事例もあります。

なぜ被害が大きくなってきたの？

通常、イノシシは人里近くの低い山に住み、人間などを警戒して日没から明け方にかけて行動します。雑食性で、農作物をはじめ、昆虫やミミズ、小動物も食べます。

気候変動や頭数が増えたこと（繁殖 通常4月から6月頃に年1回、平均5・6頭ほど子を出産）などにより、山に餌が少なくなり、農地や人里にエサを求めて出てきます。

人里には田畑や家庭菜園、花壇などがたくさんあり、これらはイノシシにとって簡単に手に入るごちそうになっています。

また、イノシシが人になれてきて、明るいうちから人里に現れるようになりました。

どのような対策を行っているの？

イノシシなどの野生鳥獣は法律により保護されています。しかし、被害が著しいため、増えすぎたイノシシの数を減らすことを目的として、町では猟友会にワナ・銃による捕獲をお願いしています。

ワナの近くには看板を設置しています。看板の周辺では十分ご注意ください。

野生鳥獣を無免許・無許可で捕獲することは、法律により禁じられています。

捕獲のみで被害を防止するには限りがあるので、被害を受けている方、また、町では被害を受ける前の防止対策として、町内の農家を対象に電気柵やワイヤーメッシュ筋、トタンなどを使った侵入防止柵の資材購入費に対し補助を行っています。

電気柵などの補助制度については、役場まちづくり推進課までお問い合わせ下さい。

イノシシを見かけたら

緑豊かな河南町の山間部には、イノシシが生息しており、エサを求めて人里に迷いこむことがあります。

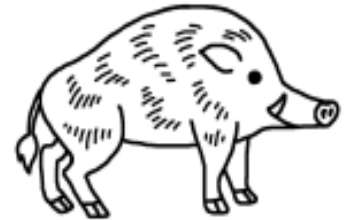
突然イノシシと出会ったときの驚きと恐怖感はかなり大きいですが、イノシシの習性をご理解いただき、イノシシをできるだけ早く山に帰すために、次の4項目をお守りください。

食べ物を与えないでください。

食べ物を見せないでください。

イノシシに近寄らないでください。

むやみに刺激を与えないでください。



以上の4項目（食べ物を与えない、見せない、近寄らない、刺激を与えない）を守ってください。

- ・特に棒などを使って追いかけるのは止めてください。恐怖のあまり逃げ出したイノシシが周りの人を襲う可能性があります。
- ・何もしてこないようなら放っておいて下さい。大抵は何もせず通り過ぎます。
- ・近づいてきた場合は、慌てずにゆっくりと後ずさりしてください。急に動くとイノシシも驚いて思わぬ事故につながります。
- ・子どものイノシシ（ウリボウ）の周りには、親がいることが多いので、かわいいからと言って近づいたり、餌をあげたりしないでください。

本来イノシシは、神経質で警戒心が強く、通常は、人の気配がするところや明るいところへは姿を現しません。十分にご注意ください。

イノシシの特徴

- 体長 約100～150cm、体重 約50～80kg
- 平均寿命 5～10年
- 繁殖：年一回 4～6月頃 春に出産に失敗した場合は秋にも出産
一回に5～6頭子どもを生む
- ジャンプ力は約1.2m
- 犬とケンカしやすい
- 後ろ向きの牙を持つ
- 走るスピード 50km/h
- 食性：基本的に雑食性、木の実、野菜、肉類、生ごみを食べる
土の中の食べ物が好物（竹の子、球根、芋類、ミミズ）
- 活動：人目につかないところでは昼間活動する昼行性
人目があるところでは、人目を避けて夜行性
- 性質：基本的に臆病。（イノシシから人間に襲い掛かったり近づいてきたりするどころか、人間を見ると逃げ出す。）
発情期、分娩期、ウリボウを連れた母イノシシや、怪我をした手負いのイノシシの場合は攻撃的になっているので注意が必要
イノシシがたてがみを立てていると威嚇の体制。シュー、クチャクチャ、カツカツカツという音も威嚇の体制。



なぜ町の中に現れるか

- イノシシの生活圏 山奥の生き物ではなく山中より里山にいる生き物
- 神戸（六甲）では：ウリボウ等への餌付けによって人間を恐れなくなった。
夜間や早朝に出されるゴミや、ノラネコへの餌やり等の簡単に
手に入る餌を求めて町に出てくる。
空き地や耕作放棄地の茂みに住み着いているケースもある。



イノシシに出会ったときは

- 出会っただけなら、放っておく。大抵はイノシシが何もせずに通り過ぎます。
（普通イノシシの方が人間を怖がって自分から逃げていきます）
- 近づいてきた時は、慌てずにゆっくり後ずさりする。慌てて動くと、イノシシも驚いて（興奮して）事故につながることもある。（背中を見せると襲ってくる場合もある）
- ウリボウを見つけても、近づいたり、餌をあげない。（親が近くにいることがある）
- イノシシを追いかけるのは危険。イノシシが恐怖でパニックになると周りの人を襲うことがある。獐猛ではないが下あごに鋭い牙を持ち、それによる脚のケガ等が起きている。

参考： 「神戸市東灘区HP」、 「特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル（イノシシ編）」、
「イノシシから田畑を守る（おもしろ生態とかしこい防ぎ方）」、「イノシシと人間」